



特集

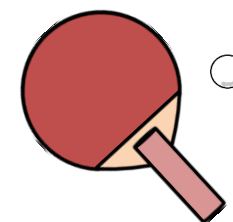
卓球用具の輸出入

2015年は輸出・輸入ともに前年比3割以上の増加

輸出額は3年連続、輸入額は5年連続の増加で、輸出・輸入ともに過去最大。

輸出・輸入ともに対中国、対ドイツが急増。

輸出額の9割、輸入額の5割を東京税関が占める。



はじめに

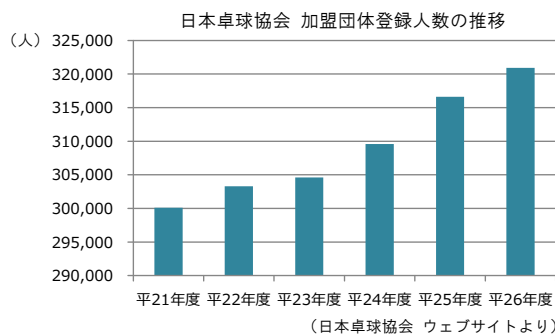
来る8月、南米ブラジルのリオデジャネイロにて第31回夏季オリンピックが開催されます。

オリンピックなど国際大会では、選手の活躍はもちろんですが、公式サプライヤーや出場選手の使用する用品など、スポーツ用品も話題に上ることが多くなります。

貿易統計に関することとすと、スポーツ用品の輸出・輸入のことになりますが、近年、貿易額が増加しているスポーツ用品の一つに「卓球用具」があります。

卓球は世界的にも競技人口が多く、国際卓球連盟に加盟する世界各国・地域の協会数は222に及び、スポーツ競技の中で最多となっています。

ちなみに日本国内では、年齢、性別を問わず楽しめるスポーツとして、競技人口は年々増えています。



卓球用具の貿易額は、輸出額・輸入額共に増加しており、昨年(2015年)は輸出額・輸入額共に前年比で3割以上増加し、過去最大となりました。

今回は、輸出・輸入共に貿易額が増加している「卓球用具」にスポットを当ててみました。

本特集の「卓球用具」は、輸出入いずれも統計品目番号 9506.40-000 に分類されるものについてまとめたものです。

*** 卓球用具って？

統計品目の「卓球用具」には、卓球台、ラケット、ボールなど、卓球に使用する用具が含まれます。

一見すると同じように見える用具も様々な種類があり、特にラケット、ラバーなどは、レベルや戦法の違いにより無数と言っているほどの種類があります。

なお、卓球用の商品にはウェアやバッグなどもありますが、それらは衣類など、それぞれの統計品目となります。

【ボール】

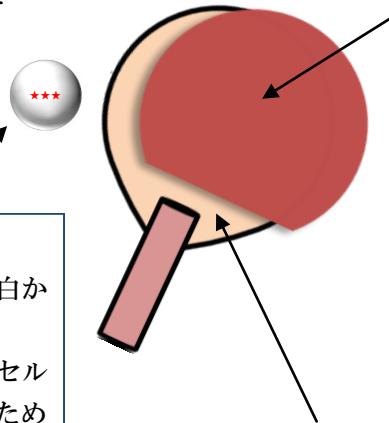
硬式球は直径 40 mm・重さ 2.7g で、色は白かオレンジ。

過去 100 年近くセルロイド製だったが、セルロイドは非常に可燃性が高く、また、そのために航空便に乗せられない等の問題点があった。

そのため、2014 年に世界卓球連盟により新たなセルロイド球の公認をしないとの方針が出され、以降はプラスチック製になった。

完全な球体であることが求められ、その出来具合により、グレード分けされる。グレードは星マークの数で示され、公式試合の公認球は「★★★（スリースター）」。

主な生産国は日本と中国で、日本製のボールが国際大会に採用されることも多いとのこと。



【ラバー】

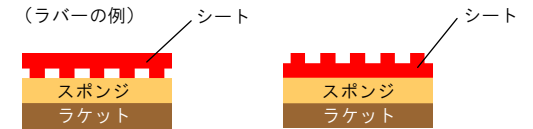
ラケットに貼るゴム。板状で粒のある「シート」と「スポンジ」を組み合わせたもの（右図参照）。色は赤と黒のみが認められている。

スピード重視、回転重視などの違いにより、シートの素材、厚さ、スポンジとの組み合わせなど種類が多い。

ボールを打つたびにすり減るため、定期的な貼り替えが必要。トップ選手は試合ごとに貼り替えるとのこと。

主な生産国は日本、中国、ドイツ。

日本製・ドイツ製は弾性・摩擦力が高く、中国製は粘着性が強いなどの特色がある。



【裏ソフト】

表面が平らでボールとの接触面積が大きく回転をかけやすい。反発力重視、回転量重視など種類が多い。現在の主流。

【表ソフト】

表面に粒が出ているので球離れが速い（スピードが出やすい）。回転量は少ないが、相手の回転の影響も受けにくい。

【ラケット】

形状は大きく 3 種類。

- ・シェークハンドラケット（グリップを握手をするように持つ）
- ・日本式ペンラケット（ペンを持つように握る）
- ・中国式ペンラケット（シェークのグリップが短い形状）

素材の 85% 以上は天然木を使用しなければならず、多くは合板製。芯材にカーボンなど特殊素材を使用したものも多い。ペンラケットでは、檜の単板製のものもある。

日本、中国にメーカーが多いが、スウェーデンなどヨーロッパにもメーカーが多数ある。

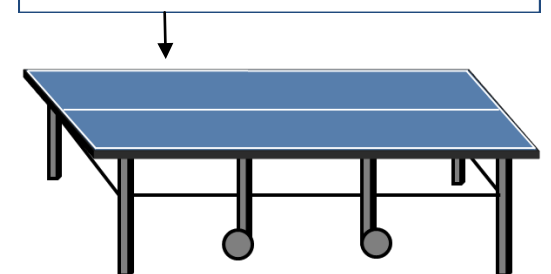
【卓球台】

国際規格は長さ 274cm、幅 152.5cm、高さ 76cm。

天板部分は、ただ平らだけでなく、ボールがどの部分に当たっても同じようにバウンドするなど、高い品質が求められる。

色は、かつては濃い緑色だったが、卓球のイメージチェンジのために 1991 年に青色の卓球台が登場。以後、公式戦を含め、卓球台の色は順次青になった。

主な生産国は日本、中国、ドイツ。



*** 輸出入動向

輸出額は3年連続、輸入額は5年連続の増加

卓球用具の貿易額は増加しており、2015年の輸出額・輸入額は、比較可能な1988年以降で最大となりました。

【輸出】

輸出額は3年連続の増加で、2015年の輸出額は24億円、前年比132.6%と大きく増加しました。

これは、10年前（2005年・9億円）の約2.7倍の額になります。

日本製の卓球用具は、世界的にも認知度が高くなってきており、そのため輸出額の増加となっているようです。輸出品はボール、ラバーなどが中心とのことです。

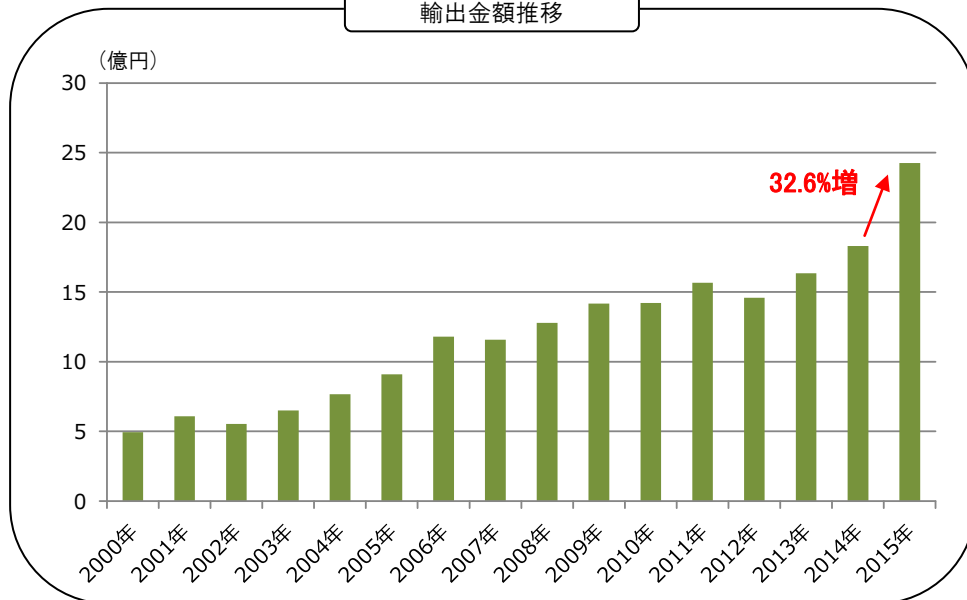
【輸入】

輸入額は5年連続の増加で、2015年の輸入額は28億円、前年比で130.9%の増加となりました。10年前（2005年・11億円）の約2.5倍の額となります。

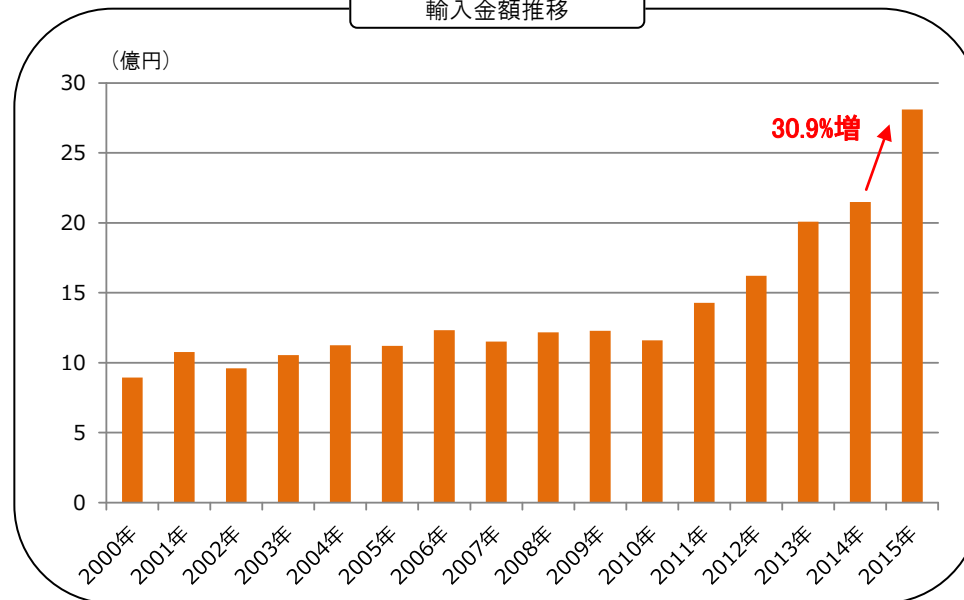
日本における卓球は、2014年4-5月に東京で行われた世界選手権で日本女子代表が31年ぶりに銀メダルを獲得して大きく報道されるなど、近年大きな注目を集めるようになってきています。

若手選手の活躍を受けて若年層の卓球人口が増加する一方、生涯スポーツとして中高年の卓球人口も増加し、日本国内の卓球用具の需要を押し上げているようです。

輸出金額推移



輸入金額推移



*** 輸出入動向（国・地域別）

対中国、対ドイツが急増

国・地域別では、2014年から2015年にかけて、対中国、対ドイツが急増しています。

業界によれば、卓球用具の生産は特定の国に集中しており、特にラバーについては、日本、中国、ドイツの生産技術が高く、ラバーの生産はこの3カ国に集中しています。

中でも中国は、国技と言われるほど卓球が盛んな国で、卓球用具の生産でも圧倒的な存在感を示しています。日本の貿易額でも、輸出・輸入とも1位となっています。

【輸出】

中国向けが前年比146.1%（5.5億円→8.1億円）と増加していますが、特殊な要因はなく、日本製品の需要の増加によるもののようです。

ドイツ向けも前年比236.4%（1.6億円→3.7億円）と増加しており、これはボールがプラスチック製に変更になったことによる影響が大きいようです。

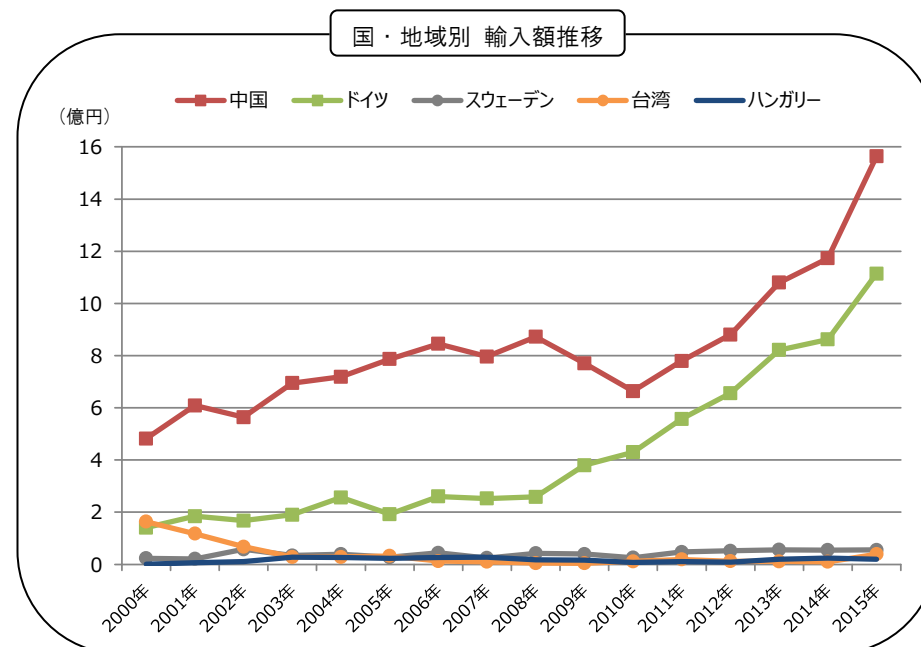
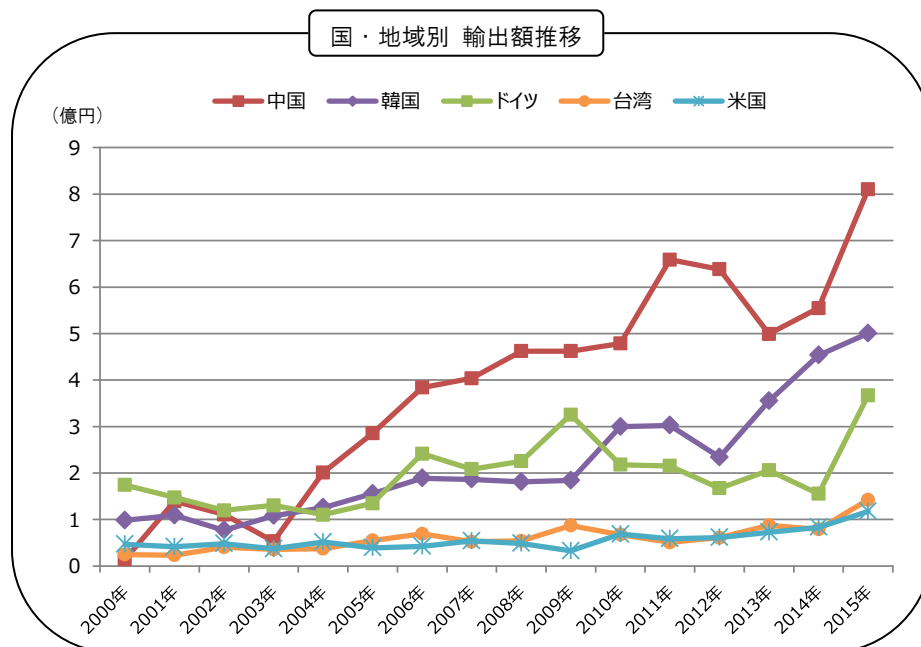
また、ドイツをハブにヨーロッパ各国に輸出されている場合も多いとのことです。

【輸入】

中国とドイツのものが多く、2015年の実績では中国55.6%、ドイツ39.6%で、この2ヶ国で輸入額の95%以上を占めています。

業界によれば、中国のものはラバーやラケットだけでなく、卓球台なども多く、ドイツのものはラバーが中心となっているとのことです。

3位はスウェーデンで、これはラケットの輸入が中心となっているようです。



*** 輸出入動向（港別）

輸出・輸入とも東京港が1位

卓球用具の輸出入を港別に見ますと、輸出額・輸入額共に東京港が1位で、輸出額の7割、輸入額の4割を東京港が占めています。

輸出額の2位は成田空港となっており、東京港、成田空港を含めた東京税関管内で輸出額の9割を占めています。

輸入についても、東京税関管内が輸入額の5割以上を占めています。

港別の輸出入額の動向については首都圏が大きくなっており、これは卓球用具のメーカーの所在地によるものが多いようです。

卓球用具の輸出入は、全体としては海上貨物が多くなっています。成田空港などの航空貨物もありますが、これは国際宅配便の利用によるものが多いようです。

港別 輸出額（2015年）

港	金額（千円）	構成比
東京港	1,811,737	74.7%
成田空港	291,564	12.0%
横浜港	153,907	6.3%
大阪港	66,739	2.8%
名古屋港	32,581	1.3%
関西空港	30,036	1.2%
博多港	23,484	1.0%
神戸港	14,164	0.6%
苫小牧港	1,841	0.1%
計	2,426,053	100.0%

港別 輸入額（2015年）

港	金額（千円）	構成比
東京港	1,127,341	40.1%
名古屋港	481,937	17.1%
中部空港	470,891	16.8%
成田空港	358,970	12.8%
大阪港	127,303	4.5%
神戸港	69,120	2.5%
新潟港	43,815	1.6%
清水港	35,200	1.3%
その他	96,333	3.4%
計	2,810,910	100.0%

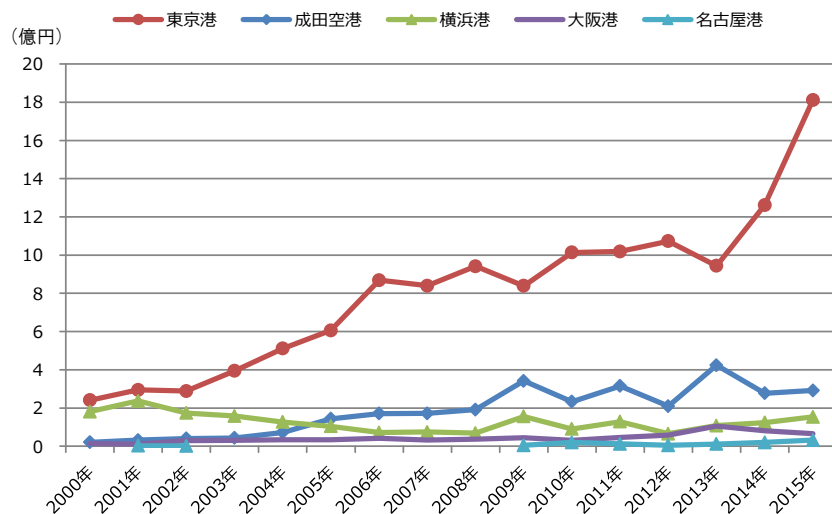
税関別 輸出額（2015年）

税関	金額（千円）	構成比
東京税関	2,103,301	86.7%
横浜税関	153,907	6.3%
神戸税関	14,164	0.6%
大阪税関	96,775	4.0%
名古屋税関	32,581	1.3%
門司税関	23,484	1.0%
函館税関	1,841	0.1%
計	2,426,053	100.0%

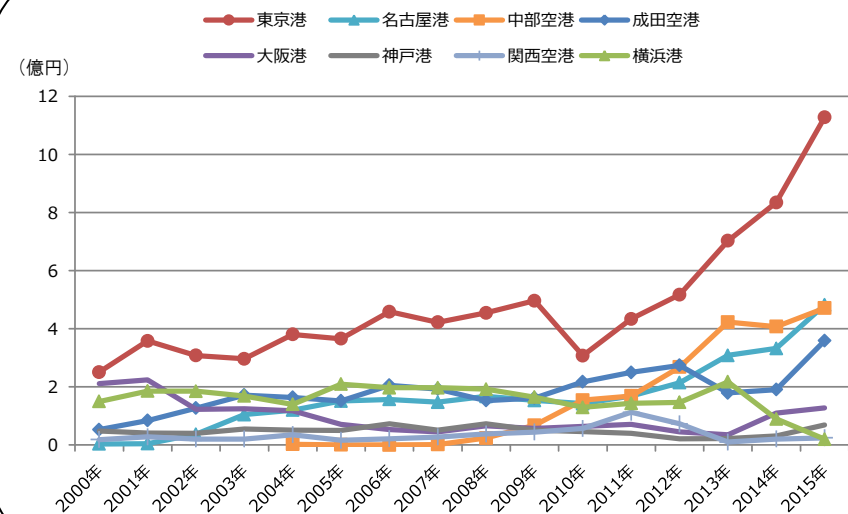
税関別 輸入額（2015年）

税関	金額（千円）	構成比
東京税関	1,530,126	54.4%
横浜税関	20,449	0.7%
神戸税関	72,884	2.6%
大阪税関	179,753	6.4%
名古屋税関	988,028	35.1%
門司税関	5,286	0.2%
函館税関	14,384	0.5%
計	2,810,910	100.0%

港別 輸出額推移



港別 輸入額推移



輸出数量・金額

年	数量 (kg)	前年比 (数量)	金額 (千円)	前年比 (金額)
1988年	77,194	-	360,597	-
1989年	77,328	100.2%	397,704	110.3%
1990年	88,904	115.0%	462,422	116.3%
1991年	79,394	89.3%	455,930	98.6%
1992年	69,856	88.0%	485,117	106.4%
1993年	84,186	120.5%	465,769	96.0%
1994年	49,284	58.5%	355,842	76.4%
1995年	58,618	118.9%	422,899	118.8%
1996年	93,154	158.9%	633,258	149.7%
1997年	97,035	104.2%	734,309	116.0%
1998年	59,854	61.7%	512,031	69.7%
1999年	60,278	100.7%	559,271	109.2%
2000年	55,079	91.4%	494,742	88.5%
2001年	70,676	128.3%	608,505	123.0%
2002年	61,584	87.1%	552,588	90.8%
2003年	67,974	110.4%	648,870	117.4%
2004年	79,958	117.6%	765,924	118.0%
2005年	94,316	118.0%	907,986	118.5%
2006年	109,514	116.1%	1,180,128	130.0%
2007年	104,082	95.0%	1,157,486	98.1%
2008年	109,826	105.5%	1,277,546	110.4%
2009年	118,426	107.8%	1,417,525	111.0%
2010年	114,491	96.7%	1,420,378	100.2%
2011年	136,808	119.5%	1,566,223	110.3%
2012年	113,894	83.3%	1,458,224	93.1%
2013年	111,803	98.2%	1,634,409	112.1%
2014年	119,662	107.0%	1,830,052	112.0%
2015年	155,955	130.3%	2,426,053	132.6%

輸入数量・金額

年	数量 (kg)	前年比 (数量)	金額 (千円)	前年比 (金額)
1988年	159,950	-	178,240	-
1989年	179,963	112.5%	166,822	93.6%
1990年	111,411	61.9%	190,102	114.0%
1991年	133,198	119.6%	287,139	151.0%
1992年	199,176	149.5%	302,159	105.2%
1993年	150,512	75.6%	251,010	83.1%
1994年	324,722	215.7%	316,739	126.2%
1995年	924,647	284.8%	460,505	145.4%
1996年	636,111	68.8%	498,433	108.2%
1997年	618,470	97.2%	503,475	101.0%
1998年	622,819	100.7%	498,502	99.0%
1999年	878,852	141.1%	623,692	125.1%
2000年	1,746,059	198.7%	892,898	143.2%
2001年	1,404,211	80.4%	1,075,177	120.4%
2002年	1,184,613	84.4%	958,779	89.2%
2003年	1,736,082	146.6%	1,054,283	110.0%
2004年	1,713,530	98.7%	1,123,942	106.6%
2005年	1,893,543	110.5%	1,119,367	99.6%
2006年	1,669,248	88.2%	1,232,213	110.1%
2007年	1,551,715	93.0%	1,150,136	93.3%
2008年	1,627,786	104.9%	1,217,015	105.8%
2009年	1,577,363	96.9%	1,228,059	100.9%
2010年	1,370,291	86.9%	1,158,676	94.4%
2011年	1,584,034	115.6%	1,427,044	123.2%
2012年	1,614,796	101.9%	1,622,079	113.7%
2013年	1,653,690	102.4%	2,008,508	123.8%
2014年	1,710,662	103.4%	2,148,131	107.0%
2015年	1,807,659	105.7%	2,810,910	130.9%

国・地域別 輸出数量・金額 (2015年)

国・地域	数量 (kg)	金額 (千円)	構成比 (金額)
中国	51,106	810,619	33.4%
韓国	26,608	500,311	20.6%
ドイツ	20,761	367,010	15.1%
台湾	8,382	142,414	5.9%
アメリカ合衆国	5,566	117,478	4.8%
シンガポール	4,685	93,961	3.9%
ベトナム	3,837	91,750	3.8%
香港	4,686	77,850	3.2%
スウェーデン	4,695	50,854	2.1%
その他	25,629	173,806	7.2%
計	155,955	2,426,053	100.0%

国・地域別 輸入数量・金額 (2015年)

国・地域	数量 (kg)	金額 (千円)	構成比 (金額)
中国	1,591,790	1,563,789	55.6%
ドイツ	110,594	1,114,290	39.6%
スウェーデン	2,903	55,355	2.0%
台湾	35,861	39,195	1.4%
ハンガリー	1,089	19,209	0.7%
その他	65,422	19,072	0.7%
計	1,807,659	2,810,910	100.0%

***【参考】日本発祥「ラージボール卓球」

「ラージボール卓球」とは、一般的な卓球（硬式卓球）より大きなボールを使って行われる競技で、日本卓球協会が卓球の普及を目的に考案した競技です。

硬式との違いは、ボールが直径44mm・重さ2.2～2.4gと大きくかつ軽いこと（硬式は直径40mm・重さ2.7g）、ラバーは「表ソフト」のみ使用可、などです。ラケットは軽めで弾むラージ用のラケットがありますが、硬式用のものも使えます。

ボールの速度・回転量が硬式よりも減るので、ラリーが続きやすく、中高年の方を中心に人気が高まっており、競技レベルも高くなってきています。現時点では国際大会はありませんが、韓国でも競技人口が増えているとのことです。

取材協力：日本卓球株式会社

本資料を引用する場合、東京税関の資料による旨を注記して下さい。

本資料に関するお問合せは

東京税関 調査部 調査統計課 TEL:03-3599-6385

貿易統計の数値はインターネットでも検索できます。

財務省貿易統計

検索



東京税関

〒135-8615 東京都江東区青海2-7-11 東京港湾合同庁舎

<http://www.customs.go.jp/tokyo/>